

「癌患者の終末期における化学療法選択の実態調査」へのご協力のお願い
～当病院において過去2ヶ月間に抗がん剤治療を受けられた患者様のご遺族の方へ～

1. 当該研究の意義、目的、方法

2015年厚生労働省の人口動態統計によると、死亡総数におけるがんの死亡率は28.7%であり、日本人の死因の第一位となっています。国民の多数ががんで死亡する現代ではがん患者様の望む死の迎え方を医療機関は提供する必要性があります。2013年厚生労働省が行った、一般国民を対象とした人生の最終段階を過ごしたい場所についての研究結果によると、自分が末期がんであるとした場合、人生の最終段階を過ごしたい場所として医療機関以外の介護施設や自宅を選択する者が多い傾向があります。しかし、総死亡数のうち病院死の占める割合は依然として高く、望み通りの人生の最終場面が実現化されているかは疑問が残っています。

また、2014年のイギリスのダナファーバー癌研究所が行った研究によると死の直前に化学療法を開始する末期がん患者は化学療法を受けない患者と比べ自らの望む場所で死を迎える確率が低くより侵襲的な治療を受けることがわかっています。

そこで本研究では死の直前一か月前に化学療法を行った末期がん患者数を明らかにし、末期がん患者へ侵襲的な化学療法を使う弊害の可能性を示し、患者や医療経済に利益になる治療について再考することを目的としています。

2. 保有する個人情報に関して

カルテから抽出されたデータは匿名化して個人が特定できない形で岡山大学保健学科において管理致します。この研究において個人情報が外部に出ることはありません。研究終了後、データはシュレッダーにかけ廃棄いたします。なお研究結果は個人情報がわからない形にして論文や学会発表、インターネットに公開いたしますのでご了承ください。

3. 問い合わせ、苦情等の連絡先

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。ご家族の情報が研究に使用されることについてご承諾いただけない場合は研究対象としませんので、研究終了の平成29年12月4日までの間に下記の連絡先にご連絡ください。ご承諾頂けない場合におきましても診療等の病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

所属: 岡山大学医学部保健学研究科

職名: 教授 氏名: 松岡順治

E-mail: jmatsu@md.okayama-u.ac.jp 電話番号: 086-235-6502